

稲作農家の皆さんへ

水田からの被覆肥料の殻の流出防止対策をお願いします。

被覆肥料は、プラスチック等で肥料を被覆することで、肥効の調節が可能となり、省力化や施肥量の削減につながるなどの優れた特徴を持っています。一方で、プラスチックを使用した被覆肥料については、水田では肥料成分が溶出した後のプラスチック殻が水面に浮上して水田の外へ流出する可能性があります。

近年は国内外で海洋ごみをはじめとしたプラスチック問題が注目され、その対応が求められています。生産資材としてプラスチックを使用する農業現場においても、廃プラスチックの排出抑制や適正処理と併せて、プラスチックを使用した被覆肥料の殻の流出防止対策をお願いします。

【被覆肥料の構造】

尿素など

殻
(プラスチックなど)

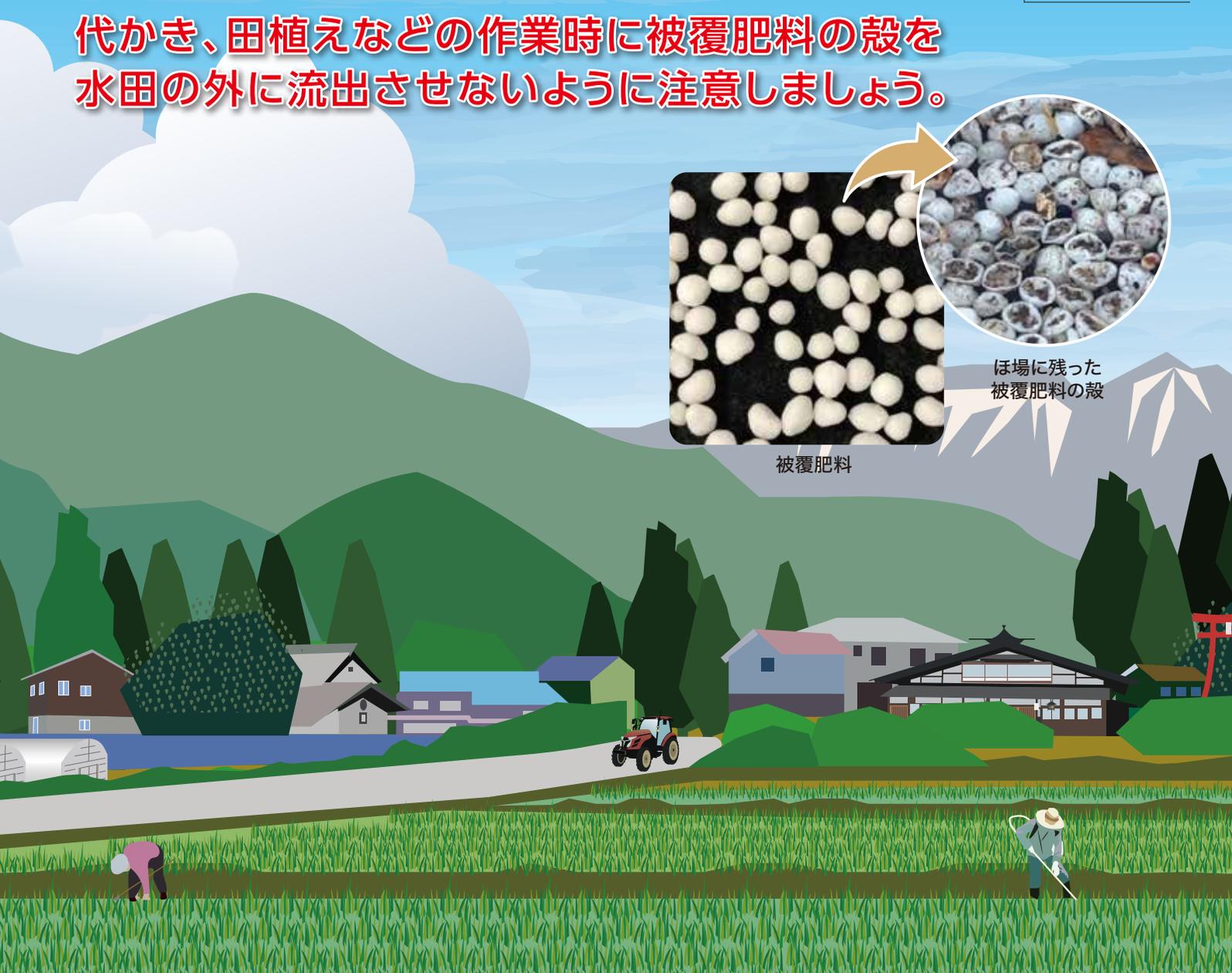
代かき、田植えなどの作業時に被覆肥料の殻を水田の外に流出させないように注意しましょう。

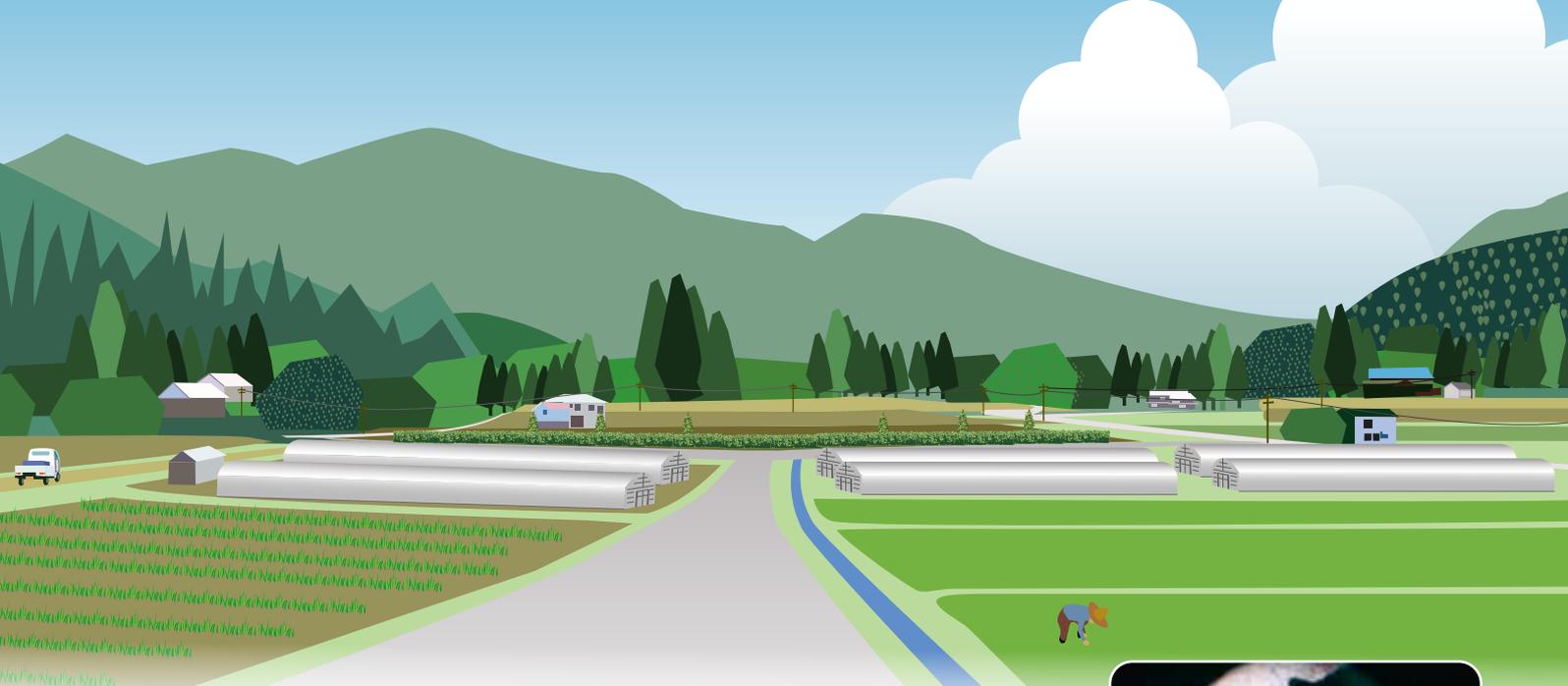


被覆肥料



ほ場に残った被覆肥料の殻





被覆肥料の殻は何でできているの？

プラスチックが使用された被覆肥料の殻は、成分の溶出を高度にコントロールしながら、光や微生物の働きにより土壤中で分解・崩壊しやすくなるよう工夫されています。しかし、現状では溶出コントロール性の確保や、殻の強度、コスト面の制約等から、速やかには分解しません。



太陽光により分解が進行中の殻

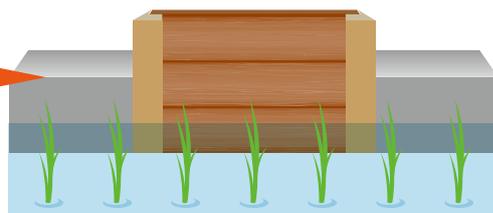
水田から被覆肥料の殻を流出させないための4つのポイント

被覆肥料を使用している水田では、田面水に被覆肥料の殻が浮遊している可能性があります。農林水産省の調査によると、水田の外に流出する殻の量は、施用した被覆肥料の内の1割未満ですが、そのほとんどが代かき直後に水尻から流出しているとされています。水田から被覆肥料の殻を流出させないために次の4つのポイントをしっかり守り、自然環境へ配慮しましょう。

ポイント① 畦畔管理

- ◎ あぜ塗りの徹底やあぜシートを設置する。
- ◎ 水尻周辺を丁寧に踏み固める。
- ◎ 止水板はあぜ(水尻の高さ)より高くする。

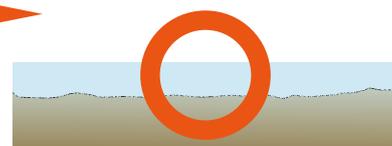
止水板は
あぜの高さ
以上に!



ポイント② 代かき

- ◎ 代かきは浅水で行い、なるべく均平にする。
- ◎ 強制落水ではなく、自然落水で水位を調整する。

代かきで
田面の高低差を
なくす!



ポイント③ 田植え

- ◎ 田植え前の強制落水は行わず、自然落水で水位を調整する。

ポイント④ 施肥

- ◎ 土壌診断に基づく適正施肥に努める。
- ◎ 他の緩効性肥料や流し込み施肥等の他の省力技術の活用を検討する。

代かきは
浅水で!

